

医学研究センター

安全管理部門

赤塚 俊隆  
(部門長)

1. 部門構成

部門長 赤塚俊隆：微生物学(教授)

**感染分野**

部門長 赤塚俊隆：微生物学(教授)  
 部門員 渡辺典之：臨床検査医学(中央検査部)(技師)  
 堀江公仁子：ゲノム医学 遺伝子情報制御部門(准教授)  
 森 隆：総医セ 研究部(准教授)  
 宮里明子：国医セ 感染症・感染制御科(講師)  
 佐藤正夫：保医学部 健医科学科(准教授)

**廃液等環境分野**

副部門長 吉田喜太郎：医学基礎 化学(教授)  
 部門員 西本正純：ゲノム医学 RI実験施設(講師)  
 森 隆：総医セ 研究部(准教授)  
 安達淳一：国医セ 脳神経外科(講師)  
 野寺 誠：保医学部 健医科学科(准教授)

**DNA分野**

副部門長 三谷幸之介：ゲノム医学 遺伝子治療部門(教授)  
 部門員 森 隆：総合医療センター 研究部(准教授)  
 池田正明：生理学(教授)  
 松井政則：微生物学(准教授)  
 千本松孝明：薬理学(准教授)  
 井上郁夫：内分泌内科・糖尿病内科(准教授)  
 江口英孝：先端医療開発センター(准教授)  
 長谷川幸清：国際医療センター(講師)  
 荒木智之：分子生物学(講師)  
 池田和博：ゲノム医学研究センター(講師)  
 加藤英政：ゲノム医学研究センター(講師)  
 伴場裕巳：保健医療学部 健康医療科学科(講師)

**動物分野**

副部門長 森 隆：総医セ 研究部(准教授)  
 仁科正実：中央研究施設 実験動物部門(准教授)  
 西川 亮：国医セ 脳神経外科(教授)  
 鈴木正彦：保医学部 健医科学科(教授)

**薬物分野**

副部門長 丸山 敬：薬理学(教授)  
 西本正純：ゲノム医学 RI実験施設(講師)  
 岸野 亨：総医セ 薬剤部(部長)  
 藤田健一：国医セ 腫瘍内科(講師)  
 鈴木正彦：保医学部 健医科学科(教授)

## RI分野

副部門長 小野 啓： 中央研究施設 RI 部門(講師)  
 飯塚 裕幸： 中央研究施設 RI 部門(助教)  
 西本 正純： ゲノム医学 RI 実験施設(講師)  
 本田 憲業： 総医セ 放射線科(教授)  
 西川 亮： 国医セ 脳神経外科(教授)  
 間瀬 年康： 保医学部 健医科学科(教授)

## 2. 今年度の活動

### 感染分野

「病原体等管理規則」の案が3月の理事会で承認され、H25年4月1日施行の運びとなった。

### 廃液等環境分野

各診療科・薬剤部・研究室で発生する実験廃液、廃試薬については、各キャンパス毎に専門業者による委託処分が行われており、排水については施設部、市町村の下水道課、専門業者などが定期的な水質検査を行い、法令に遵守した排水基準を保っている。ゲノム医学研究センターにおいては、「組換えDNA実験指針及び実験系廃棄物処理の手引」を学内ホームページに掲載し、それに従って各研究者が廃液等の処理を行うことにしている。また廃棄物委員会の下部組織として廃棄物小委員会を設置し、手引きには記載されない新たな薬品について、個別に迅速に対応できるようにしている。

### DNA分野

年度途中に、事務処理を担当する部署が、医学研究センター事務部門からゲノム医学研究センター遺伝子治療部門へと変わった。第二種拡散防止措置申請書類の審議の仕方が三谷委員長により改正され、それまではすべての申請書が委員2名による分担審査の方式であったが、審査過程の迅速化を図るため、P1に相当する申請書は委員長のみでの審査に、P2に相当する申請書は委員長と委員一名の計二名による審査に、また、P1A、P2Aの動物実験に関する申請は森隆委員も審査する形式へと変わった。また7月17日に、大学院「実用実験医学特別講義」のうちの1コマとして、「組換えDNAと拡散防止措置について」というタイトルで、組換えDNA実験従事者に関する訓練を行った。この講義はDVDに録画されており、いつでも貸し出しが可能な状況になっている。

### 動物分野

学内にて実施される全ての動物実験は、各キャンパスに設置されている動物実験小委員会そして埼玉医科大学の動物実験委員会により動物実験計画書の審査・承認が行われている。平成24年度各キャンパスから提出された動物実験計画書211件、実験室設置承認申請書26件、飼養保管施設設置承認申請書1件、動物実験結果報告書・動物実験(終了・中止)報告書31件、追加変更届42件について審議の結果承認した。さらに、随時メール会議を開催し、円滑に動物実験計画書、実験室設置承認申請書、飼養保管施設設置承認申請書の審議を行い承認した。また、遺伝子組換え生物等を使用した動物実験は、組換えDNA実験安全委員会により第二種使用等拡散防止措置承認申請書の審査・承認が行われ、適切な研究が実施されているが、今後、ウイルス、細菌あるいは遺伝子組換え生物等を用いた感染動物実験の需要が高まる傾向が予想され、学内での感染動物実験の管理体制を整備する予定である。

### 薬物分野

昨年度と同じく文科省の「農薬危害防止運動」実施依頼に基づき、研究用試薬の管理の徹底を求めるメールを全研究者に送信した。同じく文科省よりの「大学等における毒物及び劇物の適切な管理について」の事務連絡に応じて、注意喚起するメールを送信した。薬物管理を含めたセキュリティ対応として、出入室管理や防犯カメラの設置の必要性を論じた。研究センター事務部門の改変に伴い、薬物分野(薬理学教室)が麻薬研究者免許申請の窓口となって管理することとなった。その他、薬物の大学全体の包括的管理についての議論を行った。

### RI分野

今年度、副部門長が犬飼浩一准教授(RI部門)の転出により、小野啓講師(RI部門)に交代した。放射性同位元素の安全取扱いに関する新規教育訓練(放射線の人体に与える影響、放射性同位元素安全取扱い、放射線障害防止関連法規、放射線障害予防規程)を2回(H24.5.21, H24.12.11)開催した。基礎医学棟B2F会議室で午前10時より午後16時30分まで行い、参加者は各々6名、3名であった。既登録者のための再教育訓練は3月に開催した。